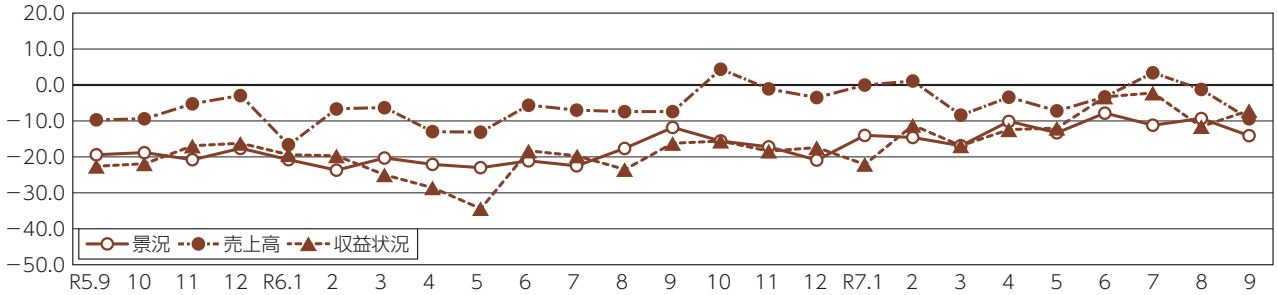
9月の道内景況 情報連絡員レポート

収益状況は前月比増加も、原材料費高騰や人手不足などに苦慮する声が寄せられた。

概況

主要 DI の推移は、前年同月との比較で、「景況」、「売上高」、「収益状況」のすべてが減少した。
また、８月から９月の推移は、「収益状況」は増加したものの、「景況」、「売上高」が減少した。
情報連絡員によると、製造業では、業種により原材料費の仕入価格が高騰したほか、需要の減少などから収益は好転しないまま推移しているとの報告があった。また、多くの組合から賃金上昇への対応による人材の確保に苦慮する声など、人手不足に関する報告が寄せられた。非製造業では、慢性的な人手不足に伴い、熟練した技術者が不足し、人材の育成環境が妨げられていることや、価格高騰により売上は伸長したものの、販売個数が昨年より大きく減少しているなどの報告があった。また、二度の連休や天候に恵まれたことにより、各地のイベントで賑わいが見られたものの、組合員への恩恵は限定的とのことであった。そのほか、事業継続のためには、組合員の意識改革の必要性や、将来を見据えた雇用と育成、地域の若者への技術の伝承が急がれるとの声も寄せられた。

主要 DI の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	８月	９月	前月比	８月	９月	前月比	８月	９月	前月比
業界の景況	△9.3	△14.1	△4.8 ↘	△10.3	△10.3	0.0 →	△8.8	△16.1	△7.3 ↘
売上高	△1.2	△9.4	△8.2 ↘	△3.4	△13.8	△10.4 ↘	0.0	△7.1	△7.1 ↘
収益状況	△11.6	△7.1	4.5 ↗	△3.0	△3.0	0.0 →	△15.8	△8.9	6.9 ↗
販売価格	27.9	29.4	1.5 ↗	27.6	31.0	3.4 ↗	28.1	28.6	0.5 ↗
取引条件	4.7	1.2	△3.5 ↘	20.7	10.3	△10.4 ↘	△3.5	△3.6	△0.1 ↘
資金繰り	△1.2	△1.2	0.0 →	△6.9	0.0	6.9 ↗	1.8	△1.8	△3.6 ↘
雇用人員	△12.8	△11.8	1.0 ↗	△6.9	△3.4	3.5 ↗	△15.8	△16.1	△0.3 ↘

天気図の見方
各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（DI）をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

（凡例）
30以上
10～29
9～△10
△11～△29
△30以下

製造業

食料品

- 物価高による消費抑制。
- 米の高騰による関連食料品の需要低迷。
- 秋鮭の漁獲不振による収益悪化、工場稼働率減少懸念。 （留萌）

- ９月から秋鮭漁が始まったが、９月 25 日現在、網走における水揚量は昨年の 48％の 435t と大きく低迷している。（北海道全体でも昨年比 60％、水揚量 5,652t）。帆立の漁獲量減少と合わせて当地域の水産関係は少し活気が落ちている。 （網走）

- 味噌・醤油出荷量

（前年対比）

味噌出荷量	道内単月出荷量（令和７年８月）	86.7%
	道内累計出荷量（令和７年１月～８月）	98.8%
	全国累計出荷量（令和７年１月～７月）	102.2%
醤油出荷量	道内単月出荷量（令和７年８月）	92.5%
	道内累計出荷量（令和７年１月～８月）	99.8%
	全国累計出荷量（令和７年１月～７月）	98.5%

- 令和７年８月の単月の道内の出荷量は、味噌・醤油ともに悪かった。１月～８月の累計では、味噌・醤油ともに前年比を下回った。
- 全国（１月～７月累計）の味噌は良く、醤油は相変わらず悪い。
- あらゆる原材料費が高騰している中で、特に、令和７年産の国産米（加工用米）も前年対比 1.8 倍と大きく上昇することになり、組合員には戸惑いが感じられる。 （全道）

- 依然として当市場における水産物については、漁獲が低迷している。イカとサンマは漁獲好調の傾向にあるが、この時期に入ってブリの漁獲が極端に少なく、水温が高く秋鮭の漁獲もない。
- 持続可能な水産資源のために、イカ TAC（総漁獲可能量）やサンマ TAC 以外の見直しが必要ではないかと思われる。 （函館）

木材・木製品

- ９月の原木の工場への入荷は、８月の大雨による林道の決壊等により、道南、道北地方に影響が出たが、関係機関の迅速な対応により、その影響を最小限にとどめている。
- 市況については在庫が不足している状況になく、増加傾向にあるが、市況が大きく変化するまでは至ってないものの、多少明るい兆しが見える。
- 国有林材のトドマツ一般材については、この暑さで虫害による品質の劣化が懸念されるため、国有林では９月に入札を２度実施するなど虫害対

策に取り組んでおり、札幌圏での業者の評価は高い。
- 木質バイオマス原料については、順調に集荷されており、価格も高止まりの傾向である。
- 国産スギの原木価格については、一部地域で上昇傾向にあり、これに伴って道南スギの価格も回復の兆しが見えてきた。４ｍ材の採材で販路を開拓したことが結果につながったと評価をしている。
- トドマツ製材市況は、先月に引き続き景気後退等の影響により、新規住宅需要が前月に比べ減少しており、非住宅、土木資材については多少の動きがあるが、価格は弱気配～保合の状況にある。
- カラマツについては、アメリカの日本に対する関税が一旦落ち着き、梱包材の受注が入ってきた工場もあり、回復傾向であるが、エゾ・トドマツは弱含みで推移している。
- 合板は東日本については、カラマツの原木不足、西日本では、スギの原木不足であり、このことで北海道の需要の回復につながればと期待している。道内製材業界は、主力製品である梱包材・パレット材のオーダーが大変厳しい状況下にあることから、一昨年から上昇した電力料金や各種諸資材、航送料金の値上げなどを製材品価格に反映させることなく、自助努力により吸収してきたが、そのような中、「2024年問題」（トラックドライバーの労働時間規制）によりトラックの手配に各工場が苦慮しており、特に次世代半導体工場等の資材運搬に多くのトラックがシフトしている状況である。（全道）

- 前月から引き続き受注量は安定している。現状11月分も多少ではあるが見えていることから、今年中はこの調子が続いていくかと思われる。（十勝）

紙・紙加工品

- 製紙・シート・板紙・段ボール製品・紙器製品の大手メーカーからの値上げが出揃った。ただ、製紙の値上げが決着していないようで動きようがない。大手グループの動き次第で今後の流れが決まりそうである。秋の需要期に入ったが、８月からの悪い流れと農作物の収穫量減の影響が出て前年割れの構図である。また、人手不足や賃金の上昇、輸送費の上昇や運転手不足、猛暑対策など、取り巻く環境は俄然厳しくなってきた。
- 地方の輸送網の分断により配送困難な孤立地区が出始めてきた。早急に路線網整備の対策が必要と考える。（全道）

窯業・土石製品

- ９月の生コン出荷量はおよそ318千m^3（前年同月比99.0%）。
- 地域別には、前年同月を上回った分会は27分会中、12分会で前年（増加は13分会）を下回った。前年同月と比較して増加したのは後志、小樽地区、北見など。一方、減少したのは札幌、釧路、十勝地方などであった。（全道）

- ９月の出荷実績数量、前年同月対比143.18%の増加。累計177.30%増加。（室蘭）

- 出荷量が依然として伸び悩んでいるが、地方においては当初計画に近づいている。（釧路）

- 砂利の販売価格は、地域ごとに年１回程度上昇しているが、需要の減少や燃料費・人件費の高騰、更には再生骨材の普及などから、収益は好転しないまま推移。
- 新幹線工事等に要する生コン用砂については、天塩港しゅんせつ工事拡充により、天塩港から石狩湾新港や瀬棚港に計画的に運搬されている。しかし、新幹線工事への納入も令和８年度で落ち着くことから、その後の需要減を懸念。（全道）

鉄鋼・金属

- 自動車向けは普通、上下水道向けはやや悪い、建設機械は持ち直し、建設資材向けもやや悪い、加工機械・ロボットは持ち直し。引き続き関連市場は全体的に思わしくないが、一部は繁忙期入りもあり持ち直しの兆しあり。（全道）

- 大手造船業界は、環境が大きく好転して業績を上げて安定しているが、中小造船経営者は、賃金上昇の影響が非常に大きく一定給与を上げなければ人材が他社に流出してしまうため、不安を抱えながら少数で厳しい経営を続けている。（室蘭）

一般機器

- 物価高騰対策の動きが鈍い。子育て世帯へ最優先かつ最大額の助成や、減税実施が必要と考える。電気料金の託送料金値上げがあり、補助額・補助期間の延長や、減税とガソリン減税の早期実施も必要。（札幌）

- 特に道東方面の動きが良いようだ。例年と比較して発注が遅れ気味で、ここに来て動きが出てきたので、このまま継続してくれればと思う。（全道）

非製造業

卸売業

- 生活雑貨、空調機器、事務機器、理化学機器等幅広い品目で前年比増収との回答が多く、在庫も増加させている。
- 靴等の季節性商品は安価でカジュアルな製品は好調であるのに対し、高価でフォーマルな製品は低迷している。
- 商品価格は、仕入れ価格の上昇に伴い引き続き上昇傾向にある。
- 慢性的な人手不足で熟練した技術者が不足し、人材の育成環境を妨げている。（札幌）

- 今年度の組合事業として、９月17日（水）～19日（金）、２泊３日で大阪関西万博などの視察研修旅行を実施した。組合員オーナーなど12名が参加した。（帯広）

- 状況として変わりはないが、製紙メーカーの生産が減少したため在庫増となった。（全道）

- 令和７年９月の当組合買付高は仲卸、荷受1,551,722千円（税抜）で、先月の８月実績額1,662,811千円（税抜）より111,089千円ほど減少した。９月はシルバーウィークにより開場日が少なかったうえに、８月のお盆のような生鮮需要もなく、必然的に扱高が減少した。来月以降はアジア圏、特に中国の国慶節による観光客の大移動があり、わが国が観光需要を一手に引き受けているらしく、そちらの生鮮需要を見込めそうではある。（道央）

- 当月の菓子卸は、価格高騰により売上は伸長しているものの、販売個数が昨年より大きく減少しており、商況はより厳しくなった。観光土産菓子も、外国人観光客が前年より増えているものの、閑散期になっているためこちらも前年より落ちている。（全道）

小売業

- 前年比較　物販97.1%、金融90.9%。
- ９月は天候に恵まれ、例年開催されている道北最大の食のイベント「食べマルシェ」には、期間中の延べ来場者数が昨年より約６万人増えて93万８千人となり、中心市街地は賑わっていた。業種別の売上では、設備関連109%・病院103%と増加したが、取扱額が大きい業種の衣料品88%・家電91%・食料品96%と減少した。（旭川）

- 帯広駅周辺で９月５日～７日に開かれた十勝最大の食のイベント「とかちマルシェ」の来場者数は過去最大の12万３千人となった。出店者数も前年より６店舗増の122店となり、会場は大盛況で幕を閉じた。しかし課題も多く、駅周辺の盛り上がりはあるが、百貨店跡地を活用した商業施設周辺までは波及せず、閑散としていた。また、会場での提供メニューは500円以下のため、購入する側は嬉しいが、販売する側にとっては人件費や食材費などのコスト増を販売価格に転嫁できないのが現状だ。加えて出展料３万円がかかるなど、今後に向けての課題になりそうだ。来年以降は駅周辺までの波及効果のあるイベント施策の立案が必要となってくるだろう。（帯広）

- 高齢化による廃業や諸物価高騰による経費削減などの理由により、当会の加盟店減少に歯止めが効かない状況であり、当町においても人口減少は止まらない。最低賃金の上昇は喜ばしいことではあるが、価格転嫁できず売上の確保も厳しい中では収益性を圧迫し、経営環境は厳しさを増すばかりである。（日高）

- 今月は平日でも日本人観光客が多かった。食堂で並ぶ客ばかりでなく、買い物する観光客も多かったが、購買価格は低いとのこと。月末特売日は、先月よりも早くからの買い物客が多く、午前８時から昼頃まで、常時50人ほどの来場があった。各店８月より良かったとのこと。（小樽）

- 気温が高いこともあり、販売数量、金額が極端に減少している。エネルギー業界の経営状況は本当に厳しい。今月より、北海道による第４次LPガス利用者緊急支援事業が行われるため、販売数量の増加に期待したい。（稚内）

- ９月は連休を利用した観光客で繁華街が賑わっていた。平日でもツアーバスがホテルに連なるなど釧路への観光ルートは人気のようだ。しかし、当組合員店には観光客を対象とした業種はなく、地域住民を対象とした小売業は衰退していく一方だと話す組合員も増えてきたように感じる。また、市内には他都市資本の店舗が集まった商業タウンがオープンし、近隣からの買い物客で賑わうなど、釧路の中心街は一層暗さを増したように思われる。当組合どの店舗も常連客が主体だが、その数も年々減ってゆき、うちもいつまでもつかという寂しい声も聞かれるようになってきた。

●販売事業３部門の実績については、携帯電話販売業は新機種の発売から、現行機種の値下がりを狙った買い控えにより取扱減、旅行業は海外の問合せは増えるも相談のみで出発には至らず、保険業については更新契約は前年並みも、新規契約に苦戦している。（釧路）

●雇用について、都合退職による減員が散見される。（上川）

●今月の函館朝市は、１週目の週末に38回目を迎えた秋の西部地区バル街、２週目の週末には昨年初開催された「アイアンマンジャパンみなみ北海道2025」が行われ、その後、３週目の週末には「黒船サーカス2025」、４週目の週末には、はこだてグルメサーカスからリニューアルされた「グルメワンダーパーク2025」がそれぞれ開催され、エリア内では毎週末賑わいが見られた。特に今年２回目の開催となった「アイアンマンジャパンみなみ北海道2025」では、当日の盛り上がりもさることながら、連休の中日ということもあり、参加者や大会関係者など大変多くの方々に大会前後で朝市にお立ち寄りいただき、お買い物やお食事など売上にも大きく貢献いただいた。（函館）

●前半はさんまの豊漁で価格も下がり、質の良い生さんまで売上が上がったが、生秋鮭は価格が高く推移して、今年の鮭はかなり厳しい現状。生筋子も１キロ1,000円以上と前年より高くなりそうだ。９月は札幌の大通でのイベントで人が出たが、周りの飲食店では厳しい。（道央）

●売上前年比106%。スポット的に大口客の利用があり、売上は伸びた一方、値上がりラッシュによる買い控えが目に付くようになってきている。（札幌）

●９月は連休が２回あり、観光客で賑わいをみせた。釧路くじら協議会が主催の鯨食普及キャンペーンで、釧路沖で水揚げした鯨を使ったくじら汁を無料提供し、200食が即完売した。市場のパン屋さんは市場内のポーションとコラボして、釧路名物スパカツをサンドして販売した。今年はサンマの水揚げが好調で、大型のサンマが店頭に並んでいる。（釧路）

●９月も道東、道央地区ではエアコンが前年より好調で売上アップに貢献したが、道央地区はあまり伸びなかった。全体的に売上は横ばい状態である。（全道）

●小売は不変。輸出が昨年より不調で業販の成約率と単価は下がり気味。（札幌）

●米農家は昨年並み、畑作は減産。また引き続き10月からの値上がりで影響を受ける。（全道）

●当組合９月加工品販売（受託加工）は、原料不足からやや低調になっている。
●従業員の不足から求人を各種継続しているが、有効な応募がない。
●上半期は、売上等収益好調だったが、下半期は販売減を予測している。（下川）

商店街

●９月共通駐車券の利用は前年同月比107.4%。買物共通バス券は前年同月比45.8%。共通駐車券は前年比微増（マルシェ開催のため）。買物共通バス券は前年比減。（帯広）

●都心部においては、大型イベントの開催等があり、８月に引き続いて多くの来街者が足を運ぶ傾向にあった。各地域においては夏まつり等のイベントも一段落して、落ち着きを見せている。しかし、物価の上昇は依然として続いているため、全体的に景況は厳しい状況にあると言わざるを得ない。（札幌）

サービス業

●全国レベルでの受注事業量は、前年度比で十数%減少、４月からの累計でも10%程度の減少となっている。こうした状況下、北海道の事業量は前年並みに推移している。しかし、この夏以降に受注した事業単価は若干上昇したが、資材・消耗品等の仕入れ単価も同様に高騰しており、収益面での圧迫が懸念される。加えて、若手及び中堅技術者の慢性的な不足も大きな課題となっている。今後は、AIなどの技術を活用した業務効率化を進めるなど、若い人材にとって魅力的な業界となるための取り組みを強化していく必要がある。（全道）

●一般的なもの及び浴場にかかわる営業用消耗品等の高騰が経営を圧迫。また、来月からの電気料金の値上げが懸念される。（全道）

●2026年、27年に大学卒業予定の就活生が、数か月以上にわたる長期インターンシップで道内の中小IT企業に有給で携わるケースが増え始めている。学生にとっては、実務経験を積んで就活に活かしながら収入も得ることができ、自社の理解を深めてミスマッチをなくしたい企業との思惑が一致していることが増加の理由。企業側は、在宅勤務や勤務日を柔軟に設定できる体制を整えて、学業との両立で長期の経験を積むことを受け入れの条件にしている。首都圏の大手システム開発企業や中堅のIT企業は情報漏洩などのセキュリティ面でのハードルが高いため、長期インターンシップの導入は難しい。そのため、中小IT企業にとっては、自社と学生の相性や働きがいを確認できて、入社後のミスマッチによる早期離職の防止にもなるだけでなく、学生を戦力として確保でき、生産性向上にも寄与して、採用につながる可能性もある。政府が採用直結型のインターンシップを容認していることもあって、長期インターンシップを採用と人手不足解消の手段として活用する道内中小IT企業が今後も増加しそうだ。（全道）

●宿泊入込数　前年比84.5%。道外客、海外客の減少が大きい。（十勝）

建設業

●９月の売り上げに関しては大きな変化に対する情報はない。一方、資材価格について据え置かれていた中から10月あるいは11月に値上げされるものが出てくるなど、取引条件は悪化傾向にあると考えられる。（札幌）

●官庁工事については、先月の状況と特段変わりはない。設備工事における不調問題は少し収まりつつある一方で、設備設計の不調の問題が顕著化してきた。このままでは、次年度予定の工事の発注に影響が出ることが懸念されている。札幌市などは、詳細設計のない「概算数量による入札」も始まってきた。また、照明LED化の問題について、数量が膨大であるため、PFI方式、ESCO方式、リース方式などが検討され、一部自治体ではこういった方法にて既に発注されている。この方式は、事業者（企業体）の代表者がほぼ大手企業となってしまうため、地場企業の参画が難しくなったり、下請けへの発注額の低廉化（下請け叩き）が懸念されている。業界団体では、地場企業が参画でき、かつ、適正な利益を確保できるような方式を採用するよう陳情を続けている。民間工事についても、先行きの不透明感は増している。住宅やマンション等の建設が減る一方で、札幌市都心部の再開発や、千歳、恵庭、北広島のホテルや物流センター、データセンター、商業施設など大型工事の発注が増えることが予想される。地場企業が元請けで取り組む案件が減り、下請けが増えるが、資材費や人件費、燃料費などが高騰する中で、きちんと価格転嫁してもらえるか否かが重要となってくる。働き方改革について、官庁工事はほぼ週休２日型が主流となったが、民間工事においては、数社のゼネコンは「隔週の土曜日閉所」方針を打ち出していたものの、やはり工程のきつい受注が多いのか、札幌市内では土曜日も稼働している現場がほとんどのように見受けられる。（全道）

●道北や道東での水害発生と厳しい月であったものの、当地区では影響を受けることなく各社手持ちの工事を順調に進めることができたようだが、人手不足は相変わらずで、今後の繁忙期を考えると頭の痛い状況は変わらず、収益の好転に結びついていない。除雪を主体とした市道維持管理業務の入札も終わり、組合員には来月からの２か月間、体制づくりの重圧に打ち勝って乗り越えてもらうことを願うしかない。（北広島）

●天候にも恵まれ順調に推移しており、組合員は雪の到来に向け準備を進めている。
●組合員の高齢化・人手不足は続いており、依然として厳しい状況が続いている。給排水の修繕対応においては、スムーズな対応になっていないことから、組合員の意識改革の必要性を感じている。将来を見据えた雇用と育成、若者へ技術の伝承が急がれている。
●地域の実情としては、うるち米ともち米の混作地帯で、適期刈による良質米の収穫で忙しい毎日が続いている。（名寄）

運輸業

●農産物の動きは地域により差があるが、最盛期のためそこそこに動いている。
●設備機器や機械等の荷動きがよくない。食料品や日用品の動きは安定している。
●ドライバー不足のため、トラックが足りない状況が続いている。
●各組合の対前年の売上伸び率は、道央圏▲２%、函館+20%、十勝▲11%、旭川+19%、苫小牧▲17%、空知+15%で、全体では▲１%。（全道）

●農産物について、数量は平年並みであるが品質は小ぶり。荷動きは昨年同様。
●日用品、建築資材関連は、10月から値上げ前の駆け込み需要の影響で、前年同期と比べて良好であった。（石狩）

●売上高は前年同月比（８月）0.55%減少。
●乗務員数は前年同月比（９月）2.0%増加。
●８月分チケット取扱高は、前年同月比3.51%減少。（旭川）